



編集月旦 2015年5月号

★前号では「高齢社会」へ警鐘を鳴らす手を休めて、春の鳥にちなんだ四字成語「鶯歌燕舞」をとりあげ、本誌が春季のごあいさつに用いている「春山如笑」（山笑うは季語に）について記しましたが、なおつづけます。

★鳥が深い谷から出て、高く大きな木に遷って巣を営むことを「幽谷より出でて、喬木に遷る」（『詩経「小雅・伐木」』）といい、「喬遷之喜」は遷ることをともに喜ぶ意味合いで用いられています。

☆新年度をむかえて、役職が高い地位に昇進した場合の「喬遷」はいいですが、遷るにしても「左遷」では迎えるほうもつらいところです。「喬遷」をまわりのみんなで祝って、遠くから「喬遷を望む」のは快い情景です。とくに会社が業界のトップに躍り出たりすれば社員みんな「喬遷盛典」で祝うことになります。

★鳥は良い木を択んで住みつき巣をいとなみますが、良い鳥が木を択ぶ「良禽択木」（『三国演義「一四」』など）となると、賢能な人物が英明な君主を択んでつかえて大業をなすという意味合いで用いられています。後漢の創成期に光武帝劉秀につかえて名将として活躍した馬援は、「当今は君が臣を択ぶ世ではありませんぞ、臣もまた君を択ぶ世なのです」といって逆指名して仕えています。ごぞんじでしたか。この馬援の娘が太子劉荘の妃となり、倭の奴国王の遣いが都の洛陽に朝貢で訪れ、皇帝劉秀と謁見した際に、太子妃として出会っていたことが想定されるのです。

☆中国でいま木の側（企業）が優れた人材を確保するにあたって、「良禽択木」がいわれまゝです。求められる「良禽」としての条件というのは、マネジメント能力や外国語でのコミュニケーション能力、専門分野でのプロフェッショナル能力といったもので、この国で奇に出で笑いをとるエンタメ能力が優先するのとは異なるようです。

★「喬遷之喜」とも「良禽択木」ともかわりない高齢期の「成熟+円熟」期のわれわれが味わいとする四字成語に「冰心玉壺」があります。終生変わることのない友情の証として、氷のような澄明な心を玉の壺に入れておくことを「冰心玉壺」（王昌齡「芙蓉楼送辛漸詩」から）といいます。唐の詩人王昌齡が長江沿いのいまの鎮江から都の洛陽へゆく辛漸に、「一片の冰心玉壺に在り」の詩句を託したことだからで、「一片冰心」あるいは単に「冰壺」ともいいます。ただし現代の「冰壺」は冬季スポーツで人気のカーリングのことです。

☆友を思う「冰心」は今も昔も変わりありませんが、現代の「玉壺」はパソコン（個人電能）でしょうか。フォルダ（文件挟）に澄明な心で生涯付き合える友人の名前とメール（電子郵便）が保管してあり、さらに一片また一片と増えていくようすに例えられそうです。中国ではスマートフォン（知能手機）の広告に「一片冰心在玉壺」をみます。

☆「政冷経熱」から「政冷経冷」までいわれる当今ですが、「文温」は底流しています。

★「65歳以上の年齢別男女別人口表」のご自分の生年に印をつけてみてください。まだお若いことに気づくでしょう。人口推計では、4人に1人の65歳以上の高齢者（史上初の高齢社会をつくる人びと）3300万人はほぼピラミッド型をしています。65歳から75歳は成熟+円熟期、75歳から85歳が円熟期（女性は90歳）。それからが達成期（余生）といっていいでしょう。もちろんご本人の納得がすべてですが。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり、高齢者の課題であり、本誌の目標です。（編集人 記）

